

## アブラハムの生涯における「ハーラフ」



基本形とは、Qal 態

	聖書箇所	新改訳聖書	態	時制
1	11:31	テラは、その息子アブラムと、 <u>・・</u> を伴い、彼らはカナン <u>の地に行く</u> ために、 <u>・・</u> ウルから一緒に出かけた。	基本形	不定詞
2	12:01	あなたは <u>・・</u> わたしが示す地 <u>に行きなさい</u> 。	基本形	命令形
3	12:04	アブラムは主がお告げになったとおりに <u>出かけた</u> 。	基本形	未完了
4	12:04	口トも彼といっしょに <u>出かけた</u> 。	基本形	未完了
5	12:05	アブラムは妻のサライと、 <u>・・</u> を伴い、カナン <u>の地に行こう</u> として出発した。	基本形	不定詞
6	12:09	それから、アブラハムは <u>なおも</u> 進んで、ネゲブの方へと旅を続けた。	基本形	不定詞
7	12:19	<u>・・</u> さあ、今、あなたの妻を連れて <u>行きなさい</u> 。	基本形	命令形
8	13:03	彼はネゲブから <u>旅を</u> 続けて、ベテル <u>・・</u> まで来た。	基本形	未完了
9	13:05	アブラムといっしょに <u>行った</u> 口トもまた、	基本形	分詞形
10	13:17	立って、その地を縦と横に <u>歩きまわりなさい</u> 。 わたしがあなたに、その地を与えるのだから。	ヒットパエル形	命令形
11	14:24	ただ若者たちが食べてしまった物と、私といっしょに <u>行った</u> 人々の分け前とは別だ。	基本形	完了形
12	15:02	私には子がありません。 (直訳) 私は子がなく <u>歩いている</u> 。	基本形	分詞形
13	17:01	私は全能の神である。あなたはわたしの前を <u>歩み</u> 、全き者であれ。 別訳【歩き回れ】	ヒットパエル形	命令形
14	18:16	<u>・・</u> アブラハムも彼らを見送るために、彼らといっしょに <u>歩いて</u> いった。	基本形	分詞形
15	22:02	あなたの子、あなた愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地 <u>に行きなさい</u> 。	基本形	命令形
16	22:03	こうして彼は、神がお告げになった場所へ <u>出かけて</u> 行った。	基本形	未完了
17	22:05	<u>・・</u> 私と子ども(息子)とはあそこに <u>行き</u> 、礼拝をして、あなたがたのところに戻って来る	基本形	願望形
18	22:06	<u>・・</u> ふたりはいっしょに <u>進んで</u> いった(歩いて行った)。	基本形	未完了
19	22:08	こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。	基本形	未完了

20	22:13	アブラハムが目を上げて見ると、見よ、角をやぶにひっかけている一頭の雄羊がいた。アブラハムは(歩いて)行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。	基本形	未完了
21	22:19	こうして、アブラハムは、若者たちのところに戻った。彼らは立って、いっしょにベエル・シェバに行った。	基本形	未完了

●アブラハムの生涯において「ハーラフ」が使われている箇所だけをピックアップすると、この「歩く」という動詞の基本形と強意のヒットパエル(再帰)形が使われているだけで、受動態も使役形も一切ありません。全体を見てみると、13章17節の「立って、その地を縦と横に歩きまわりなさい。わたしがあなたに、その地を与えるのだから。」という呼びかけと、17章1節にある「あなたはわたしの前を歩み(歩きまわり)、全き者であれ」という主の呼びかけは、アブラハムの信仰の生涯において、主体性と自発性をもって主の前に歩き回ることを促す特異なことばであったことがわかります。